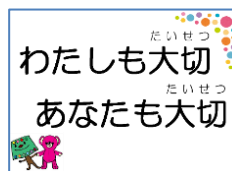


なるおきた

西宮市立鳴尾北小学校
西宮市学文殿町2丁目2番7号
TEL:(0798)47-1051 FAX:47-9507
<https://www.fureai-cloud.jp/naruokie>



学校教育目標 知徳を磨き 健やかな子の育成

田んぼの学校

昨年6月から西門入ったすぐの花壇で稲を育てていました。花壇の土をそのまま使ったので、田んぼのように水を張ることはできませんでした。秋には黄金色の実ができたものの、田んぼの稲と比べると小粒で、数も少なかったことが心残りとなっていました。

そこで、次の田植えまでに花壇を改修し、水を張った状態で稲を育てることができるようになりました。稲の成長によいだけでなく、多様な生き物を呼び込み、自然のすばらしさや生命の大切さを学ぶ場としての機能を高めることができます。

そんな構想を、私が教員時代からお世話になっている農家の方に相談すると、農作業用の重機と道具を運んでくるから、井戸を掘り、本格的な田んぼを整備しようというお申し出をいただきました。農家の方からのお声かけで、水道や電気の工事等を専門とされる方々にもご協力をいただけることとなりました。

4月14日(金)に東門付近の一角で作業を行いました。午前中に重機を使って田んぼの整地を行い、午後から井戸の掘削に取りかかりました。滑車を通して吊り上げた重りを上下させ、鉄パイプを打ち込んでいきます。本当に水が出るのかと半信半疑だったのですが、「間違いなく水は出る」という農家の方の言葉の通り、十分な水量の井戸を掘り当てることができました。



整備後、数日間、試験的に田んぼに水を張りました。休み時間に子供たちと田んぼの様子を見ていると、「アメンボがいる!」という声が上がりました。その子が指さす方向を見てみると、アメンボがすいすいと水面をすべっています。すると、近くにいた1年生が「自然はいいなあ」とつぶやく声が聞こえました。まわりの子供たちも、「アメンボはどこから来たの?」「どうしてここがわかったの?」「どうしてアメンボっていうの?」と、アメンボに興味津々でした。

4月24日(月)・25日(火)の休み時間、田んぼの石拾いボランティアを募集すると、たくさんの子供たちが参加してくれました。今後も田植えや雑草引き、稲刈り等、さまざまなボランティアを募集して行く予定です。

稲の成長や多様な生き物の生態を観察したり、田んぼのボランティア活動に参加したりすることを通して、田んぼの学校での学びが豊かになることを願っています。



(校長 河合 純孝)